

イベント情報

お申込みは、大安場史跡公園
ガイド施設へ直接かお電話で。

平成27年度 大安場史跡公園歴史講演会 対象:中学生以上

始祖墓と大安場古墳

古墳研究の第一人者が、大安場古墳のような大型古墳には、氏族(共通の祖先を持つ血縁集団)が結束する要としての役割があったことを解説します。

講師:土生田 純之氏



定員
100名
入場無料

3/20日

PM1:30~PM3:00

●お申し込み/2月20日(土)午前9時から
電話かガイド施設窓口にて受付

昔ばなし

対象:どなたでも
(小学生以下は保護者同伴)

ベテラン語部の昔ばなしでほっこりしてみませんか。

講師:五十嵐敬子さん 渡部キミ子さん
(郡山民話語り部の会)



定員
60名
入場無料

3/26土

PM1:30~PM3:00

●お申し込み/2月26日(金)午前9時から
電話かガイド施設窓口にて受付

大安場史跡公園管理センター

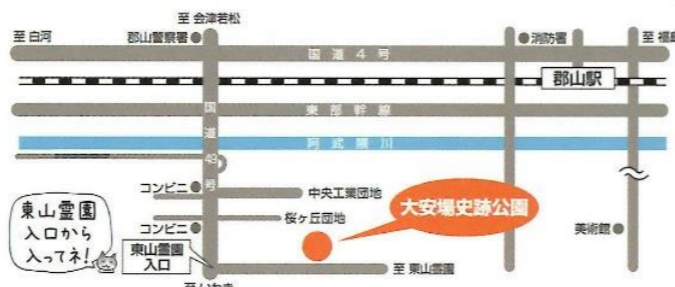
(公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)

- 住 所:福島県郡山市田村町大善寺字大安場160番地
- 電 話:024-965-1088 FAX:024-965-1090
- M a i l:oyasuba@bunka-manabi.or.jp
- 休館日:月曜日(月曜日が祝日の時は次の休みでない日)
※公園は年中無休です。

ウェブサイトも
チェック!

大安場史跡公園

検索



タイトルはまるい石釧、さんかくは古墳の前方部しかくは後部を表現しています。

大安場史跡公園

まるさんかくしかく

vol. 27

歴史ウォークに同行取材
「盃状穴」の記事に、
はいじょうけつ 大反響!

発行
平成28年2月29日

昨年10月25日に開催した「歴史ウォーク」の様子が新聞に取り上げられました。同行取材した記者は、史跡公園ボランティアの宇野功悦さんが案内解説した「盃状穴」に興味をもったようで、その内容を中心に記事としました。

それ以降、「新聞にのった盃状穴って、なに?」「どこに行けば見られるの?」など、県内外から問い合わせや盃状穴情報が多く寄せられました。このため今号は、郡山市内の主な盃状穴をご紹介します。その謎にせまってみたいと思います。

歴史ウォークは、史跡公園周辺の歴史や文化を訪ね歩く催し物です。平成27年度は、田村町手代木地区にある縄文~古墳時代の集落遺跡や古墳、鎌倉~戦国時代の石造物や城館跡などを、地元の行政区にご協力いただきながら見学しました。



▲朝日新聞 第2福島版
平成27年11月20日発行



田村森神社の参道では鎌倉~江戸時代の石造物を見学。解説する宇野ボランティアの指さす先にある石にあけられた小さな穴が盃状穴です。

▲約1400年前につくられた妻見塚古墳の見学風景。

郡山市内の主な盃状穴

盃状穴とは

お寺や神社にある石碑や鳥居、石橋や参道の石置みなど、宗教に関わる石造物に対し、後の時代の人があけた小さな穴です。大きさは、直径・深さとも5cm程度のものが多いようですが、10cmを超す大型品や細長い溝状のもの、広い範囲を浅く削ったものなど形状はさまざまです。

作られた年代は、原始や古代から始まったとする説もありますが、鎌倉時代から江戸時代に建てられた石碑の一部に盃状穴が多くみられるので、その中心は江戸時代かそれ以降だったようです。この風習は、明治時代や大正時代の石造物にもみられることから、つい最近、私たちの祖父母、あるいは親の世代まで続いていたと考えられています。

その目的は、「神仏への願掛け説」や削った粉や穴にたまった水に薬効を期待した「薬説」が有力ですが、穴でヨモギをつぶす「子どもの遊び説」なども考えられています。

熊野神社 (本町一丁目) 境内の常夜燈

常夜燈は家内安全を願って奉納されたものですが、台座に円形、塔身には銘文を避けるように削られた線状の盃状穴がみられます。

江戸末期の文政四年(1821)建立
高さ275cm



盃状穴



善導寺 (清水台一丁目) 境内の念仏供養塔

台座に40個以上の盃状穴があり、溝で結ばれたものは星座のようにもみえます。念仏を唱えると極楽往生できるという教えがありますので、これを願ったのでしょうか。

江戸後期の宝暦五年(1755)建立 高さ330cm



安養寺 (阿久津町) 境内の閻魔像

閻魔さまは安産や子安神として信仰されていました。この像は43人の女性によって建立されたもので、台座に盃状穴がみられます。閻魔さまに願いが届くよう、一心に盃状穴を掘る女性の後ろ姿が目に見えそうです。なお、頭部は明治時代に壊されてしまいましたが、現在はコンクリートで復元されています。

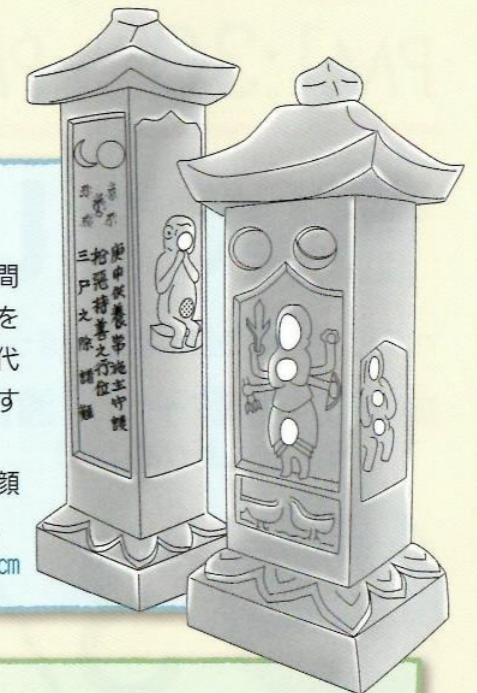
江戸後期? 高さ99cm



山清寺 (日和田町高倉) 参道の庚申塔

中国の道教に、60日ごとにめぐってくる庚申の日の夜、眠っている間に体内から抜け出す三尸という虫が、天の神にその人の罪や過ちを報告し、神はこれによって死期を早めるとの思想があります。江戸時代になると庶民の間にこの考えが広まり、男性が一夜を眠らずに過ごす庚申講がつくれ、各地に庚申塔が建てられました。山清寺の庚申塔には、青面金剛や三猿が浮彫されていますが、像の顔や胸、お腹が丸く削られています。延命祈願の可能性が高いようです。

(左)江戸中期の延宝八年(1680)建立 高さ201cm



高安寺 (田村町御代田) 境内の二十三夜塔

全国的には二十三夜は女性の集まりですが、郡山周辺では男性が集会していました。陰暦二十三日の夜、観音経を唱えながら深夜の月の出を待つ習わしは、息災を目的にしたものです。台座の盃状穴も同じ御利益を願って、掘られた可能性が高いようです。

江戸末期の安政六年(1859)建立
高さ199cm



馬頭観音堂 (西田町鬼生田) 境内の手水鉢

手水鉢は参拝者が身を清める水をためる容器ですが、鉢の周囲に50個以上の盃状穴があげられています。浄水による病氣治癒などを願ったのでしょうか。

江戸中期の享保十年(1725)建立 高さ50cm



盃状穴作りには、金属の道具が使われたようです。金属痕の縦スジがある盃状穴 直径約10cm
まつきいね 松木稲荷神社 (本町二丁目) 常夜燈



盃状穴作りの実験

江持石(凝灰岩)にドライバーを使って直径・深さ5cmの穴を掘るのに15分間かかりました。